●シリーズ●わがまちの文化財<19>

町指定重要文化財　頓迫遺跡出土遺物（とんざこいせきしゅつどいぶつ）

昭和59年5月15日指定

昭和36年の林道整備中に土器片が採取されました。その後の周辺調査では土器片や石器、柱穴跡が確認され、縄文時代中期のものであることがわかりました。この遺跡は世羅町で初めて発見された縄文時代の遺跡です。

縄文土器といえば、東北地方などで出土の奇抜な形と派手な模様のものを思い浮かべるのが一般的ですが、広島県で出土する縄文土器の多くは、縄目模様を一旦つけてから上から擦り消した擦り消し縄文と呼ばれるものです。頓迫遺跡から出土した土器もこの手法が施されています。頓迫遺跡から出土した土器や石器は一括して町に寄贈され、現在は大田庄歴史館に常設展示されています。

左中央のものが、最初に見つかった縄文土器片（頓迫 No.1）

●シリーズ●わがまちの文化財<20>

町指定重要文化財　廃歓喜寺の薬師如来坐像（はいかんきじ　やくしにょらいざぞう）

昭和45年4月1日指定

歓喜寺は現在の黒川自治センター周辺にあったとされる禅宗寺院で、この仏像はその歓喜寺内にあったものです。

台座裏面の墨書によると、庇護者が不在となった後に崩れた像を、寛文二年（一六六三年）に仏師により修復したことがわかっています。安置されていた堂も崩れたため、個人宅で保管後、善仁寺に移され現在に至っています。

像は寄木造で、白毫（びゃくごう）（額中央の突起）には水晶が使われ、左手にあったはずの薬壺は無くなっています。蓮華座の連弁は葉脈まできっちりと彫られていることや仏像の衣が写実的に表現されていること、肉髻（にっけい）（頭の盛り上がった部分）の段差が明確なことなどの特徴から、室町時代の作と考えられます。